

◆新型コロナが5類に移行し、社会経済活動が、感染前に戻りつつあります。研究所の活動も自粛を続けてきましたが、対面を前提とする学習会の開催などを検討すべき時期にきています。一方で、Zoomを利用して

の活動も利点があります。例えば、県外や遠方の会員が学習会に参加できる。また、県外在任の方を、新潟に招かずとも講師をお願いし、学習会開催することができると。会員の減少と高齢化の中、対面とZoom併用で、今後の活動を検討していきたい。

◆前号でZoomのレコーディング機能を使って、田口さんのインタビューの文字おこしをしたことを紹介しました。今回は、梅村さんの講演の文字おこしです。講演はビデオで録画しました。文字おこしは、ワードの音声入力を利用しました。パソコンで録画を流しながら、音声をマイクで拾うと、文字変換してくれます。

◆もちろん、とんでもない変換や誤字等ありますが、ゼロからの文字おこしでないの、時間短縮になりました。動画に自動で字幕をつけるソフトもあります。今の技術の進歩に驚かされるとともに、使えこなせると思えば便利なんだろうなと思う昨今です。

◆今号の特集は「子育てが楽しいと感じられる支援の在り方」で実らない「少子化対策」です。

◆5月7日のNHK日曜討論「いま話し合おう子ども・若者とお金」で、出演した大学院生は、「少子化対策のみならず、生活保護とか、社会保障の話になった途端、いつも財源の話から入る」のに、「オリゾンティック開催」や「防衛費増額」は、財源の話は最初からない。結局「どこに予算を配分するか、という優先順位が、そもそも少子化だった社会保障はすこく低く見積もられてると鋭く指摘していました。

◆この番組の冒頭には、子ども一人、高校卒業するまでにかかる費用が約2000万円であることも紹介されていました。非正規雇用が増え、実質給与は上がるどころか、下がるばかりです。新婦人の子育てグループのアンケートでも、子育てにお金がかかる事が多く寄せられています。子育てに希望は持てないことがあきらかです。

◆岸田首相は「異次元の子育て支援」と言っています。今求められているのは「普通の子育て支援」です。梅

村早江子さんが話された「学校給食費の無償化」、国として子ども医療費の無料化に取り組むこと、高校無償化、高すぎる大学の授業料の引き下げ等、今すぐ実行すべきです。

◆立石由美さんと本間真由美さんの記事、共通して、高校時代の素晴らしい教師との出会いと体験が記されていました。お二人の現職時代の活躍を見てきた私には、その原点の一端を知ることができたような気がしました。

(和澄)

にいがたの教育情報 No. 138

2023年6月30日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林昭三

〒956-0024

新潟市秋葉区山谷町3-2-9 和澄利男気付

TEL・FAX 025-369-0671

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku2nde-m@na.ncv.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959